

＋ 防犯パトロールはいつ・どんな所でやるの？

- 防犯パトロールは、犯罪が多発している時間帯や場所を選んで実施しましょう。
 - ・空き巣などの侵入窃盗事件が多発している住宅街など
 - ・小中学校の通学路や公園など
 - ・ひったくりなどの街頭犯罪や空き巣などの侵入犯罪が多発している地域
- 多くの方が参加しやすい日・時間帯・場所（地域）を選んで実施しましょう。
- 一人でも多くの地域の皆さんが参加し、継続して実施していくことが大切です。



＋ 何人でやるの？

- 防犯パトロール中に、危険な事件に巻き込まれる可能性がないとはいえません。2人以上の複数で行うようにしましょう。
- トラブルや緊急の事態が発生した時に、手分けして援護や連絡（110番通報）ができる態勢で実施しましょう。
- パトロール中は、責任者（リーダー）を決め、その指揮のもとに集団で行動しましょう。

＋ どんな服装で？

- パトロールを実施する際は、昼夜を問わず、蛍光色などの目立つ服を着用しましょう。
- できるだけ帽子・ジャンパー・腕章・たすきなどを着用し、統一された服装で行いましょう。
- 靴は活動しやすい運動靴などを履きましょう。
 - ・目立つ服装は、地域の皆さんにパトロール中であることをアピールすることができます。また、犯罪を行おうとする者や不審者に警告を発することで、犯罪抑止効果があります。
 - ・パトロール中の交通事故防止にもつながります。



＋ 携帯するものは？

- パトロールに出かける時は、携帯電話、防犯ブザーや警笛などを携帯しましょう。110番通報や緊急時の連絡に役立ちます。
- 夜間に実施する場合は、懐中電灯などの照明器具を必ず携帯しましょう。
- 事件・事故、不審者などを発見した場合に記録するためのメモ帳、筆記具も必要です。
- カメラを携帯するのも効果的です。ただし、個人の撮影には十分な配慮をしましょう。

「安全・安心の街に」 YC 読売センターは地域の防犯活動を推進しています

こども110番 YCは「こども110番の店」として活動しています	不審者注意 配達・集金の際、不審者に注意します	防犯情報発信 警察署の協力を得て防犯チラシ等を配布します	見守り活動 配達・集金とは別に町内を見守ります	学校や地域でのセーフティ教室開催のお手伝い
---	--	---	--	------------------------------

YC あなたの街の読売センターからお届けしています

読売KODOMO新聞
よみうりこども新聞

- 毎週木曜日発行
- タブロイド判 / 20ページ / オールカラー
- 特別協力 / 小学館
- 協力 / 四谷大塚

詳しくはホームページで >>> 読売KODOMO新聞 >>> 検索



発行 / 全国読売防犯協会
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社販売局 販売企画調査部内
TEL.03-3216-9024
2003/2280M



ホットスポット・パトロールで住民力を高めよう PART2

発行 / 全国読売防犯協会 協力 / 警察庁、警視庁、立正大学教授[犯罪学] 小宮信夫

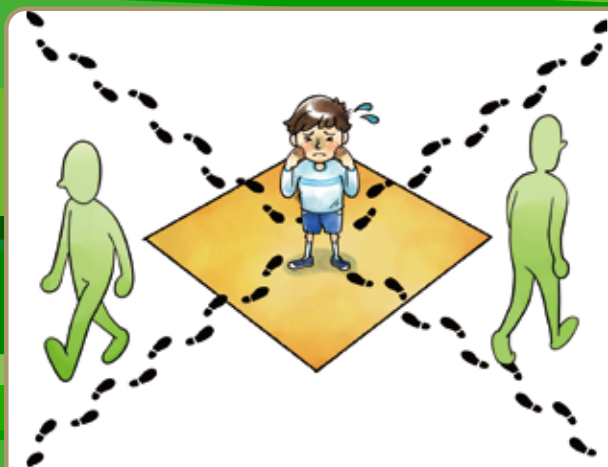
どろぼうは家に侵入する前に地域を下見するといいます。私たちは外見では誰が犯罪者か見分けが付きません。しかし、「住民が目や耳を光らせて地域を守っている」「街が地域の人によって管理されている」と感じる雰囲気が出ることによって、犯罪者に犯行を思いとどまらせることはできるのです。「ホットスポット・パトロール」は、地域をくまなく巡回するパトロールとは異なり、犯罪が起こりやすい場所（ホットスポット）に一定時間とどまるなど、重点的なパトロールを実施する手法です。住民の力を結集し、このパトロールを実践して、わが街を守りましょう！

＋ ホットスポット・パトロールとは ＋

犯罪が起こりやすいと言われる「入りやすい+見えにくい」場所＝ホットスポットに注目し、そこを重点的にパトロールすることで、犯罪者にプレッシャーを与え、犯行をあきらめさせることがねらいです。

入りやすい場所

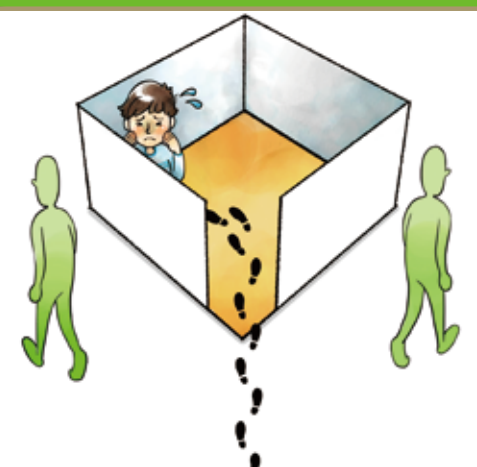
犯罪者が怪しまれることなく、簡単にターゲットに近づけます。



- ・ 入るのにじゃまになるものがない。
- ・ 境がはっきりしていない。
- ・ 出入り口（逃げ道）が多い。

見えにくい場所

犯罪が目撃されにくく、通報もされにくくなります。



- ・ 見るのにじゃまなものがある。うす暗い。
- ・ 人がいなくて見てもらえない。
- ・ 人が多すぎて見てもらえない。

各ホットスポットにしばらく（5分～10分程度）とどまりながらパトロールしましょう

YC 読売センター（読売新聞販売店）は地域の防犯活動に取り組んでいます

こんな場所に
気をつけよう

危ない場所は、だれでも入りやすい場所で見えにくい場所です。

1 管理人のいない駐車場、駐輪場



待ち伏せされたり
連れ込まれたりしても、
目撃されにくい

2 空き家（工事現場、神社）



カギがかかっているのと、
だれでも入りやすい。中に
入ったらまわりから見えにくい

3 男女同じ入り口のトイレ



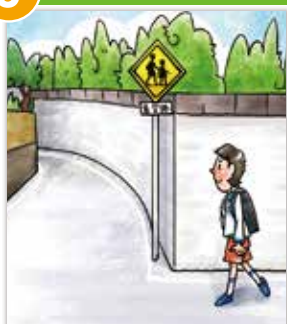
男性が女性のすぐ後ろを
ついてきても不審に
思われない
※男性が女性の場所に入り
やすいから危険です

4 管理の悪い公園



地域の関心がなく、
心理的に見えにくいので
犯行が発覚しにくい

5 高いへいや植木がつづく道

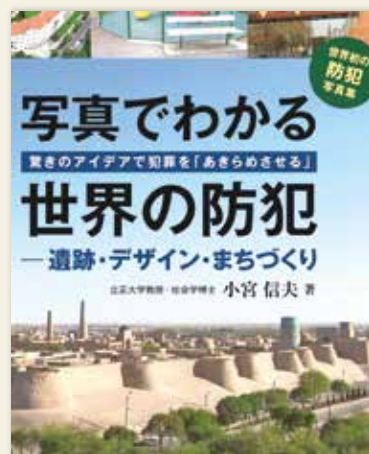


歩いている姿が
まわりから見えにくい

6 エレベーター



まわりをよく見て乗らないと、
知らない人と2人きりになる



小宮先生からの激励メッセージ

ホットスポット・パトロールは、防犯の世界標準である「犯罪機会論（防犯環境設計+割窓理論）」に理論的根拠を持つ手法です。今や、地球規模で行われていますが、日本での実施率はまだ1割にも達していません。ホットスポット・パトロールは、防犯効果が証明された唯一のパトロール方法であり、これなら、無理なく無駄なく、楽しみながら続けられます。

そのためにはまず、地域でどこがホットスポット（犯罪が起こりやすい場所）なのかを探さなければなりません。そのお役に立てるのが、『写真でわかる世界の防犯——遺跡・デザイン・まちづくり』（小学館）です。私が撮影した景色を見ながら、安全と危険のポイントを解説した「写真集」です。ぜひこれを参考にして、皆さんの地域の防犯活動を、新鮮で奥深い活動に進化させてください。



【小宮信夫プロフィール】

立正大学文学部教授（社会学博士）。日本人として初めて英国ケンブリッジ大学大学院犯罪学研究科を修了。国連アジア極東犯罪防止研修所、法務省法務総合研究所などを経て現職。「地域安全マップ」の考案者。警察庁「持続可能な安全・安心まちづくり」の推進方策に係る調査研究会「座長などを歴任。趣味・嗜好は、旅行、映画、落語、音楽、スポーツ、アイスクリーム。



公式ホームページ
「小宮信夫の犯罪学の部屋」

<http://www.nobuokomiya.com>

こちらのQRコードからホームページへ



＋ 防犯パトロールってどんなことをするの？ ＋

＋ 防犯パトロールは犯罪を未然に防止するための活動です。

＋ 地域住民へのあいさつなどの声かけや防犯指導などを行います。

- ・パトロール中はもとより、普段から見知らぬ人にも相手の目を見て「おはようございます」「こんにちわ」などとあいさつしましょう。
- ・自転車に乗っている女性やお年寄りには「ひたたくりに注意しましょう」「防犯ネットをつけましょう」などと声をかけましょう。

＋ 通学路や公園などで子どもたちの安全を見守ります。

- ・登下校時の通学路で、子どもたちに声かけやあいさつなどをしましょう。
- ・公園などで幼い子どもだけで遊んでいるのを見かけたら、周囲に不審者（車）がいないか確認し、子どもには「知らない人にはついていけない」「知らない人の車に乗らない」「早く家に帰ろう」などと注意を呼びかけましょう。

＋ 青少年非行防止のための声かけをします。

- ・青少年が夜間に公園などでたむろしているのを見かけたら、帰宅を促したり、警察署に通報したりしましょう。

＋ 事件・事故が起こりやすい場所の点検をします。

- ・以前にひたたくりや性犯罪、車上ねらい、放火、不審者による子どもへの声かけなどが発生した場所を、重点的にパトロールして点検しましょう。
- ・通学路や公園、空き地などで周囲から見通しの悪い植栽、フェンスなどによって死角となる場所はないか点検しましょう。
- ・街路灯（防犯灯）は点灯（設置）しているか、危険な交差点はないか点検しましょう。

＋ 事件・事故、不審者（車）などを発見した際は110番通報をします。

- ・事件・事故を発見した際は、すぐに110番通報や119番通報をしましょう。
- ・不審者（車）を発見しても、声をかけたり、捕まえようとせず、警察署に通報しましょう。
- ・不審者の性別、年代、服装、身長、体格、髪形、所持品などをできるだけメモして、かけつけた警察官に伝えましょう。
- ・車やオートバイの場合は、色、型、ナンバー、乗車人数、ヘルメットの色や逃走方向をメモしてください。

＋ 迷子や病人・けが人を発見した際は通報をします。

- ・迷子やけが人などがいた時には、保護するとともに警察署や消防署に通報しましょう。

